

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	(掲 載 号)
学術集会・講習会		
2000年8月23日(水)～25日(金)	日本比較免疫学会第12回学術集会(東京・ホテル聚楽)	[343]
24日(木)～26日(土)	第11回日本生体防御学会学術総会(吹田市・大阪大学吹田キャンパス医学部講義棟)	[340]
25日(金)～27日(日)	平成12年度野外生態実習「植物群落のわけ方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園講義室および園内)	[342]
25日(金)～27日(日)	日本蜘蛛学会第32回大会・総会(東京・東京大学山上会館)	[344]
9月2日(土)	平成12年度自然観察会「鳴く虫」自然教育園(東京・自然教育園)	[344]
15日(金)～17日(日)	日本鳥学会2000年度大会(札幌市・北海道大学)	[343]
20日(水)	(財)東レ科学振興会第50回科学講演会「今、材料研究が面白い」青色発光素子はいかにして生れたか」(東京・有楽町朝日ホール)	[345]
21日(木)～23日(土)	日本動物学会第71回大会(東京・東京大学・教養学部キャンパス・駒場)	[337] [339]
26日(火)～28日(木)	バイオジャパン2000(東京・京王プラザホテル)	[345]
28日(木)～30日(土)	第25回日本医用マスメクトル学会年会(広島・廣仁会館)	[337] [345]
29日(金)～10月1日(日)	日本植物学会第64回大会(静岡市・静岡大学共通教育棟)	[337] [340]
30日(土)～12月3日(日)	特別展「知られざる極東ロシアの自然ーヒグマ・シベリアトラの大地を旅するー」(千葉・千葉県立中央博物館)	[345]
10月6日(金)～9日(月)	2000年度日本魚類学会年会(小田原市・神奈川県立生命の星・地球博物館)	[344]
7日(土)	日本花粉学会第41回大会(札幌市・北海道大学学術交流会館)	[344]
7日(土)～8日(日)	第14回カロテノイド研究談話会(静岡県・静岡大学(浜松キャンパス)佐鳴会館会議室)	[342]
13日(金)～15日(日)	(財)染色体学会第51回大会・市民公開講座(横浜市・横浜市立大学木原生物学研究所、女性フォーラム)	[345]
14日(土)	自然史学会連合シンポジウム「21世紀の自然史科学における画像データベース」(東京・国立科学博物館新宿分館・研修研究館)	[344]
19日(木)～20日(金)	第15回「大学と科学」公開シンポジウム 生物と金属：金属イオンの生体内で働く仕組み(東京・日経ホール)	[345]
21日(土)	第17回(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団公開シンポジウム「糖尿病」ーその発症機構から予防までー(東京・経団連ホール)	[344]
22日(日)	平成12年度自然観察会「川原の生きもの」(東京・多摩川(二子玉川))	[345]
26日(木)	酵素工学会第44回講演会(東京・東京大学「山上会館」)	[344]

編集委員会からのお知らせ 生物科学ニュースに原稿をお送り下さる場合は、テキストファイル(3.5インチフロッピーディスクの郵送もしくは動物学会(ny02-zsj@t3.rim.or.jp)気付の電子メール)とプリントアウトしたものを、「ニュース原稿」と明記の上、生物科学ニュース編集委員会宛にお送り下さい。書式などは生物科学ニュース最新号をご参照下さい。今年度の掲載原稿の締切日(必着)は巻末に掲載してあります。

- 27日(金) 日本藻類学会秋季シンポジウム「21世紀における海藻の研究と利用」(東京・学士会館) [345]
- 27日(金)～28日(土) 第20回記念 微生物分類研究会「微生物系統分類学, 今日と明日」(東京・東京大学山上会館) [345]
- 11月1日(水)～3日(金) 植物微生物研究会第10回研究交流会(仙台市・東北大学長陵(ごんりょう)会館) [343]
- 4日(土)～5日(日) 日本爬虫両棲類学会第39回大会(沖縄・琉球大学西原キャンパス) [344]
- 4日(土)～5日(日) 日本原生動物学会第33回大会(金沢市・金沢シティモンドホテル) [344]
- 5日(日) 第54回日本人類学会大会サテライトシンポジウム「日本列島の人口潮流ーヒトはいかにして生まれ死んできたのかー」(東京・東京大学安田講堂) [345]
- 9日(木)～10日(金) 第9回日本バイオイメージング学会学術集会(東京・昭和大学上條講堂他) [343]
- 11日(土) 2000年度藻類談話会(大阪市・関西総合環境センター) [345]
- 15日(水)～17日(金) 第14回日本動物実験代替法学会大会(千葉・市川市文化会館) [345]
- 17日(金) 第6回日本味と匂学会講演会「味と匂いの最新研究」(東京・大田区民ホール, アプリコ小ホール) [345]
- 18日(土) ユーグレナ研究会大16回研究集会(岡山市・岡山大学自然科学研究科棟) [344]
- 21日(火)～22日(水) 第37回植物化学シンポジウム(札幌市・北海道大学学術交流会館) [345]
- 24日(金)～26日(日) 日本動物行動学会第19回大会(滋賀県・滋賀県立大学交流センター) [344]

国際会議

- 2000年9月6日(水)～9日(土) 欧州植物性食品栄養増加会議(European Conference on Nutritional Enhancement of Plant Foods)(イギリス・Norwich) [335]
- 11月10日(金)～11日(土) セルロース科学の国際シンポジウム“Frontier in Cellulose Science”(京都市・京大会館) [345]
- 16日(木)～17日(金) NIAR-COE/BRAIN/CREST 合同国際シンポジウム“Self-defense signaling pathways in plants”(つくば市・つくば国際会議場中ホール) [344]
- 30日(木)～12月1日(金) 第7回日本菌学会 国際シンポジウム「菌類と植物の相互関係: 寄生から共生へ」(つくば市・科学技術庁 研究交流センター) [341]
- 30日(木)～12月2日(土) NIAR/COE/BRAIN-RITE 国際シンポジウム Photosynthetic CO₂-Assimilating Enzymes: RuBisCO and PEPC(兵庫県・グリーンピア三木) [345]
- 12月4日(月)～6日(水) COE-国際会議 Plant and Ultraviolet-B Radiation: Effects of Increasing Ultraviolet-B Radiation on Ecosystem and Resistance of Plant to Ultraviolet -B Radiation(仙台市・東北大学医学部長陵会館) [345]
- 2001年1月28日(日)～2月2日(金) Gordon Research Conference “Temperature Stress in Plants”(USA・Sheraton Harbortown Resort, Ventura, California) [345]
- 7月8日(日)～12日(木) 第14回 国際発生生物学会大会(第34回 日本発生生物学会大会)(京都市・国立京都国際会館) [345]
- 10月21日(日)～25日(木) 第7回腔腸動物の生物学に関する国際会議(同時開催 Annual European Meeting on the International Society for Reef Studies)(イスラエル・Eilat) [344]

公 募 (求人関係は除く)

- 2000年8月21日(月) 第8回日産科学賞 [343]
- 第27回日産学術研究助成 [343]
- 31日(木) 第12回加藤記念海外派遣助成(後期) [340]

31日(木)	2000年度朝日賞(345)
9月1日(金)	平成12年度(第9回)藤原ナチュラルヒストリー振興財団学術研究助成(341]
20日(水)	第5回(平成13年度)井上フェロー 第17回井上学術賞 第17回井上研究奨励賞(341]
30日(土)	第9回(平成12年度)木原記念財団学術賞(343]
30日(土)	第22回沖縄研究奨励賞(344]
10月10日(火)	平成12年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成(340]
10月10日(火)	第32回(平成12年度)内藤記念科学振興賞 第32回内藤記念海外学者招へい助成金(後期) 第32回内藤記念研究成果刊行助成金 第17回内藤記念海外留学助成金(342]
31日(火)	平成13年度笹川科学研究助成(345]
31日(火)	第4回尾瀬賞(345]
31日(火)	財団法人農芸化学研究奨励会第28回研究奨励金(345]
11月15日(水)	平成12年度下中記念財団第9回下中教育映像助成金(345]
15日(水)	第6回(2001年度)日本女性科学者の会奨励賞(345]
30日(木)	2001年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」および研究助成(345]
30日(木)	第3回大学婦人協会守田科学研究奨励賞(345]
12月8日(金)	(財)昭和聖徳記念財団学術研究助成(345]
10日(日)	平成12年度下中記念財団第39回下中科学研究助成金(345]
31日(日)	平成12年度風戸研究奨励金(研究費助成)(345]
31日(日)	2001年度 ICIPE(国際昆虫生理生態学センター)派遣研究者(345]
2001年4月30日(月)	2001年度「女性科学者に明るい未来をの会」研究助成(345]
随時	ASTER(Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)研究公募(320]

(社)日本植物学会、(社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

E-mail bsj@ma.kcom.ne.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

E-mail ny02-zsj@t3.rim.or.jp

両学会共通 FAX 専用 03-3814-5352

学術集会

● (財)東レ科学振興会第50回科学講演会「今、材料研究が面白い“青色発光素子はいかにして生れたか”」が、9月20日(水)(午後6時～8時45分)に、有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11階)(東京都千代田区有楽町2-5-1)で開かれます。内容は次の通りです。

1) 青色発光素子を求めて－窒化物半導体と完全結晶－(名城大理工・赤崎 勇)、2) 完全結晶への挑戦

－結晶成長メカニズムの理解から欠陥を制御する－(名城大理工・西永 頌)

参加費は無料で、定員は630名(先着順)です。

【問合先】 279-8555 千葉県浦安市美浜1-8-1 (財)東レ科学振興会 TEL 047-350-6103 FAX 047-350-6082
E-mail JDP00120@nifty.ne.jp

● バイオジャパン2000が、9月26日(火)～28日(木)に、京王プラザホテル(東京・新宿)で開かれます。内容は

次の通りです。

1) 基調講演: “The Next Decade of Biotechnology” (アムジェン, 全米製薬工業協会・Gordon M. Binder), “Life Science, Industry & Societys” (Bio Vision, Europa Bio・Phillipe Demarescaux), “21世紀を生命の世紀にするために” ((財)バイオインダストリー協会・歌田勝弘)。／2) シンポジウム: ①科学の新しい動向, ②環境, ③企業戦略, ④知的財産権, ⑤パブリックアクセプタンス, ⑥基盤整備, ⑦農業バイオテクノロジー, ⑧スポンサーセッション (登録料 1日券3万円, 3日通し券6万円)／3) ビジネスパートナーリング: 日本と世界各国約100社の優良バイオベンチャーが一堂に会し, 世界の最先端の技術を紹介。(参加費 5万円 (3日間通し))／4) 展示会 16ヶ国140社のバイオ関連企業・団体が集合し, 技術・製品・サービス等をアピール。(入場料 1,000円 (3日間))

入場申込方法はバイオインダストリー協会のホームページ <http://www.jba.or.jp> をご覧下さい。

【問合先】 104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 (財)バイオインダストリー協会 事務局担当 依田・森下
TEL 03-5541-2731 FAX 03-5541-2737

●第25回日本医用マススペクトル学会年会在, 9月28日(木)～30日(土)に, 廣仁会館(広島大学医学部同窓会館)で開かれます。内容は次の通りです。

(28日) シンポジウム: “Development of Newborn Screening by Chemical Diagnosis using GC/MS in Asia”

1. “IEM cases detected through high-risk screening in Beijing” (Children’s Hospital of Capital Institute of Pediatrics, People’s Republic of China・Ke Ming Xu)／2. “Establishment of GC/MS analytical center by JICA’s support and IEM found in Thailand” (Mahidol Univ., Thailand・Pornswan Wasant)／3. “IEM found in India and new development of joint venture with GC/MS manufacturer for spreading chemical diagnosis” (Centre for Research in Mental Retardation, India・Usha P. Dave)／4. “Challenge to IEM screening by chemical diagnosis using GC/MS in Haikou City and Hainan Province, China” (Haikou People’s Hospital, People’s Republic of China・Lu Chuazhu)／5. “How to select target diseases of IEM in Asian countries” (Kurume Univ. Sch. of Med., Japan・Ichiro Yoshida)。若手の会: 一般講演終了後, 学内生協にて

(29日) ワークショップ: “21世紀に向けた質量分析技術の最先端” 参加予定会社: サーマクエスト, 島津製作所, ジーエルサイエンス, ジャスコインターナショナル, 日本ウォーターズ, 日本電子, PE バイオシステムズ, 横河アナリティカルシステムズ
一般講演・学会奨励賞講演

(30日) 公開シンポジウム: “マススペクトロメリーの小児疾患への臨床応用” 1. カルニチン代謝異常症 (福井医科大・重松陽介)／2. 脂肪酸代謝異常症 (島根医科大・木村正彦)／3. 糖脂質代謝異常症 (島根医科大・藤脇建久)／4. 原発性胆汁酸代謝異常症 (久留米大医・木村昭彦)／5. 胆汁酸代謝異常症 (広島大医・宇根瑞穂)／6. ステロイド産生異常症 (慶応大医・本間桂子)／7. 変異蛋白症 (大阪医科大・清水章) (発表演題は略題)

年会参加費は当日5,000円, 学生会員 無料です。懇親会費 (9月29日(金) 夕刻 ホテル JAL シティ広島) は, 当日5,000円 学生会員 無料です。

【問合先】 734-8551 広島市南区霞1-2-3 広島大学医学部法医学教室 第25回年会事務局 今村 徹 TEL 082-257-5172 FAX 082-257-5174 E-mail tohru@hiroshima-u.ac.jp ホームページ <http://mcai.med.hiroshima-u.ac.jp/med/med/kiso/houi/>

●特別展「知られざる極東ロシアの自然ーヒグマ・シベリアトラの大地を旅するー」が, 9月30日(土)～12月3日(日)に, 千葉県立中央博物館で開催されます。

千葉県立中央博物館では, 1995年よりロシア連邦ウラジオストクにあるロシア科学アカデミーと共同でロシア極東部の調査を進め, 1996年, 1997年にカムチャツカ半島や北千島列島地域の生物相共同調査を行いました。本特別展では, 最新の研究成果から, 水鳥がつなぐ極東ロシアと日本の自然・日本の生物と極東ロシアの生物のつながり・極東ロシアの自然の現状と日本の役割などを紹介します。世界最大級のシベリアトラの剥製やテントよりも大きなヒグマの剥製, 体験コーナーには実際にさわれるアザラシ・オットセイ・オオヤマネコの毛皮なども展示する予定です。入場料は, 一般が500円, 高校・大学生は400円, 小・中学生は200円です。団体割引もあります。月曜は休館, 但し月曜が祝日の場合は開館し翌日が休館です。

展示期間中には, 4つの講演会; 福田俊司氏による「僕がシベリアに魅せられた訳」(9/30), 戸川久美氏によ

る「シベリアトラを救え」(10/14), 大場達之氏による「高山の植物と群落の分布」(10/21), 等々力政彦氏による「知られざるアジア:シベリア」(11/3)の他に公開シンポジウム「ロシアからの渡り鳥(冬鳥たちの世界)」(11/18)が企画されています。いずれも先着200名, 参加無料です。

【問合先】 260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館 TEL 043-265-3111 ホームページ <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/index.htm>

●(財)染色体学会第51回大会が, 10月13日(金)~14日(土)に, 横浜市立大学木原生物学研究所(横浜市戸塚区舞岡町641-12)で, 同大会の市民公開講座が, 10月15日(日)女性フォーラム(横浜市戸塚区上倉田町435-1)で開かれます。一般講演(口頭およびポスター), 総会, 受賞講演の他, 次の企画を予定しています。

シンポジウム「染色体を作る—高等動植物の動原体構造」(米国ウイスコンシン大・J. Jiang) 他, 特別講演「染色体を読む—ゲノム情報がヒトの社会に与えるもの」(慶應大・清水信義), ワークショップ「機器・薬品の進展から見た染色体研究の進歩」機器・薬品メーカー, 公開市民講座「性はいらない?—遺伝子で決まる性, 決まらぬ性」(長谷川眞理子) 他。

講演申込締切は8月31日です。学会誌をご覧ください。参加費は一般会員9,000円, 学生会員4,000円, 非会員12,000円で Party 代を含みます。公開市民講座のみの参加は, 無料ですが, 往復はがきで9月30日までに申し込んでください。応募者多数の場合は, 抽選いたします。

【問合先】 244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学木原生物学研究所遺伝進化学部門内 染色体学会第51回大会運営委員会事務局 辻本 壽 TEL 045-820-1902 FAX 045-820-1901 E-mail tsujimot@yokohama-cu.ac.jp

●第15回「大学と科学」公開シンポジウム 生物と金属:金属イオンの生体内で働く仕組みが, 10月19日(木)~20日(金)に, 日経ホール(東京・大手町)で開かれます。内容は次の通りです。

19日:A.「私たちの生活と金属イオン」私たちの生命活動に必要な金属イオンの役割(岡崎国立共同研究機構・北川禎三)/B.「生体における小分子の活性化」呼吸とエネルギーづくりに必要な銅と鉄の酵素(姫路工大・吉川信也), 老化の敵 活性酸素を取り除く鉄酵素

(京大・森島 績), 手づくりの酵素はうまく働くか?(岡崎国立共同研究機構・渡辺芳人)/C.「バイオテクノロジーへのつながり」生体内燃料電池の化学合成(九州大・成田吉徳), 金や白金は薬として有効(京都薬大・桜井 弘), 産業に役立つ酵素:ニトリルヒドラーゼの話(理研・遠藤 勲)。

20日:D.「生物の進化と分子進化」生物の進化を金属タンパク質の遺伝子にみる(名古屋大・郷 通子)/E.「金属元素の特色と酵素機能」植物の成長に必要な鉄タンパク質(大阪大蛋白質研・長谷俊治), 味覚・消化・飲酒と亜鉛酵素:タンパク中の亜鉛元素の特色(広島大・木村榮一), 尿酸づくりに必要なモリブデン酵素~痛風のくすりのねらいどころ~(日本医科大・西野武士)/F.「遺伝子の機能制御」遺伝子に指令を与える亜鉛タンパク質(京大・杉浦幸雄), 金属で遺伝子転写装置の構造を見る(国立遺伝研・石浜 明), 核酸と金属を遺伝子治療や DNA チップにいか利用するか(甲南大・杉本直己), 環境に応じて遺伝子を働かせる鉄タンパク質(北陸先端科学技術大学院・青野重利)。

参加費は無料です。参加希望者は, 1)住所・郵便番号・電話番号(自宅か勤務先を明記), 2)氏名・年齢・性別, 3)職業(勤務先・役職名), 4)セッション名, 5)参加希望日時をご記入の上, はがき, FAX または E-mail で申し込んでください。(株)アドスリーのホームページ上でも受付しております。受講希望者には, 資料引換券を郵送します。

【申込・問合先】 105-0001 東京都港区虎ノ門3-16-7 ピュア虎ノ門3F (株)アドスリー内 「生物と金属」事務局 TEL 03-3459-0006 FAX 03-3459-6894 E-mail info@adthree.com ホームページ <http://www.adthree.com>

●日本藻類学会秋季シンポジウム「21世紀における海藻の研究と利用」が, 10月27日(金)午後1時~5時に学士会館(東京・神田一ツ橋)で日本藻類学会, マリンバイオテクノロジー学会, 日本海藻協会の共催により開かれます。内容は次の通りです。

伝統食品である海藻類は, 高齢化時代に入り健康食品として世界的に注目されており, 海藻を食べる地域が広がりがつつあります。そこで今回は, 海藻研究の課題, 寒天, アルギン等の研究史と将来への展望, 食用海藻業界の課題などについて, 藻類学, 天然物化学, 海藻業界の分野の方ばかりでなく, 一般の方々にも理解できるよう

にやさしく講演されます。

1) 海苔研究の課題 (東京水産大・能登谷正浩), 2) 海藻抽出物研究の課題 (日本大・西出英一), 3) 海苔業界の課題 (水産大学校・鬼頭 釣), 4) ワカメ業界の課題 ((株)理研食品・佐藤純一), 5) 昆布業界の課題 ((株)天満大阪昆布・喜多清光)

シンポジウム参加費は無料 (講演集300円) ですが, 懇親会参加費は6,000円です。詳細は下記にお問い合わせください。

【問合先】 日本海藻協会事務局: 781-1164 高知県土佐市宇佐町井の尻194 高知大学海洋生物教育研究センター 大野正夫 (懇親会申し込み) TEL 088-856-0462 FAX 088-856-0425 E-mail mohno@cc.kochi-u.ac.jp, 日本藻類学会事務局: 305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学生物科学系 宮村新一 TEL0298-53-4532 FAX 0298-53-6614 E-mail miyamura@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

● **第20回記念 微生物分類研究会「微生物系統分類学, 今日と明日」**が, 10月27日(金)~28日(土)に, 東京大学山上会館で開かれます。

微生物分類研究会は, 本年度で発足20年を迎えました。記念事業の内容としまして, 外国人研究者の招へいと記念冊子の発行を実施致しますが, 研究会は, 招へい外国人研究者と積極的に意見交換をする目的で, すべて英語による発表とし, 一般講演ではなくすべて指定講演とすることになりました。プログラムは次の通りです。

27日: 基調講演「Microbial Systematics -Today and Tomorrow」(駒形和男) / Session I (菌類) 特別講演「Molecular phylogeny and systematics of the fungi with special reference to the Asco- and Basidiomycota」(Univ. of Bodenkultur, Austria・Hansjorg Prillinger), 招待講演 (JCM・浜本牧子, 高島昌子) (明治薬大・杉田 隆, JCM・鈴木基文) (三菱科学・三川 隆) (東大分生研・西田洋巳) / 懇親会 (山上会館地下食堂)

28日: Session II (微細藻類) 特別講演「Cyanobacteria: In search of an international identity card」(Pastuer Institute・Rosmaric Rippka), 招待講演 (東大院農生命科学・大塚重人) (筑波大生物科学系・中山 剛) (国立環境研・河地正伸) / Session III (細菌, 古細菌) 特別講演「Polyphasic taxonomy in practise: the *Burkholderia cepacia* challenge」, 招待講演 (豊橋技術科学大・平石 明) (岐阜大医・江崎孝行) ((財)発酵

研・波多野和徳) (JCM・伊藤 隆)

参加費は6,000円 (含講演要旨と記念出版物) です。懇親会費は5,000円です。

【問合先】 113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学分子細胞生物学研究所 微生物微細藻類研究分野内 横田 明 TEL 03-5841-7827 FAX 03-5841-8490 E-mail uayoko@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

● **第54回日本人類学会大会サテライトシンポジウム「日本列島の人口潮流ーヒトはいかに生まれ死んで来たのかー」**が, 11月5日(日)に, 東京大学安田講堂で開かれます。内容は次の通りです。

縄文からみた弥生の人口 (国立民族学博物館・小山修三), 縄文時代の出産率と寿命ー骨からの推定ー (日大松戸歯・五十嵐由里子), 骨から見た老いと病 (東京都老人総合研・鈴木隆雄), 人生40年の世界: 江戸時代の出生と死亡 (上智大経済・鬼頭 宏), 到達点としての少子高齢社会 (国立社会保障・人口問題研・金子隆一)。

参加費は無料です。

【問合先】 113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻内 日本人類学会サテライトシンポ事務局 近藤 修・数藤由美子 TEL 03-5841-4482 (近藤), 4496 (数藤) FAX 03-3818-7547 (共通) E-mail anth2000@biol.s.u-tokyo.ac.jp ホームページ <http://www.biol.s.u-tokyo.ac.jp/users/jinrui/anth2000/satellite.html>

● **2000年度藻類談話会**が, 11月11日(土) 午後1時~5時に, 関西総合環境センター (大阪市中央区安土町1-3-5) で開かれます。内容は次の通りです。

講演: 海洋深層水を用いた大型藻類の培養についてー現状と課題 (高知県海洋深層水研・寺田竜太), 微細藻類と海洋細菌の関係 (京大院農・今井一郎), 高度不飽和脂肪酸を蓄積する海生“菌”ラビリンチュラ類の系統分類 (甲南大理・本多大輔), 車軸藻のリン酸代謝ー生体膜輸送と生理作用 (奈良女子大理・三村徹郎)。

研究発表会: 藻類を研究材料とする大学院生などの若い研究者の発表を募集します。1演題当たり討議を含めて15分を予定しています。演題の申込締切りは10月2日(月)です。

参加費は500円です。談話会終了後, 会場内で懇親会 (有料) が予定されています。詳細はホームページ (<http://biotech1.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/ws.exe/>)

websql.dir/100HP/100hpdetail.hts?id=475&site=btj&gid=6) をご覧ください。

【問合先】 606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学総合人間学部自然環境学科 幡野恭子 TEL 075-753-6854 FAX 075-753-6864 E-mail hatano@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

● **第14回日本動物実験代替法学会大会**が、11月15日(水)～17日(金)に、市川市文化会館(千葉県市川市大和田1-1-5)で開かれます。内容は次の通りです。

15日: サテライトセッション「皮膚刺激性試験代替キットの使用法と利用上の注意」(8月10日で事前登録を締切りました)

16日: シンポジウム I 「安全性評価における動物実験代替法のいま」／特別講演「Current Validation Studies on Alternatives to Animal Experiments in Europe」(ZEBET, Berlin, Germany・Horst Spielmann)／シンポジウム II 「代替法としてのハイスルットスクリーニングとその問題点」

17日: パネルミーティング「皮膚刺激性試験代替キット利用とその問題点／ミニ・ワークショップ「急性毒性評価のための新しい試み／一般公開市民公開フォーラム(午後4時～6時30分)(入場無料)「初等・中等教育における動物実験とその代替法」1) Better Science Teaching with Humane Alternatives (Balcombe), 2) 小学校における動物に関する教育(岸本祐希), 3) 我が国における初等中等教育の動物実験代替法の実状(小川朝子), 4) 中高等教育における動物実験代替法の実践(飯島和重)

参加費は、会員・当日7,000円(事前登録5,000円(9月30日締切)), 非会員・当日10,000円(事前登録7,000円(9月30日締切))です。

【問合先】 158-8501 東京都世田谷区上用賀1-18-1 国立医薬品食品衛生研究所 毒性部 第14回日本動物実験代替法学会事務局 小川幸男 TEL 03-3700-9646 FAX 03-3700-2348 E-mail jsaae14@nihs.go.jp

● **第6回日本味と匂学会講演会「味と匂いの最新研究」**が、11月17日(金)(午後1時より)に、大田区民ホール、アブリコ小ホール(東京都大田区蒲田5-37-3)で開かれます。内容は次の通りです。

1) マウス嗅覚受容細胞における匂い情報の符号化(電子技術総研大阪ライフエレクトロニクス研究センタ

ー・広野順三), 2) 鋤鼻上皮細胞の構造と機能(杏林大保健解剖・高見 茂), 3) ショウジョウバエを用いた匂い記憶に関する遺伝子の同定と機能の解析(東京都神経科学総合研分子生理・斉藤 実), 4) 単一細胞の PCR 法による味蕾細胞の分類(農水省食品総合研分子機能開発研・日下部裕子), 5) ヒトの脳活動の非振襲計測による味覚関連部位の解明(生命工学工業技術研人間情報・小早川 建)

参加費は2,000円(当日受付)です。希望者は下記へ FAX, E-mail またはハガキで10月31日(火)までに申込んでください(当日参加可)。会場は150席程度です。

【申込先】 183-8526 東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 発生形態部門 市川眞澄 FAX 042-359-1510 E-mail mich@tmin.ac.jp

● **第37回植物化学シンポジウム**が、11月21日(火)～22日(水)に、北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)で開かれます。内容は次の通りです。

第1日(13時15分～16時45分): 1) キノコ由来の生体機能調節物質(静岡大農・河岸洋和)／2) 微生物由来マクロファージ泡沫化阻害剤(北里研生物機能研・供田 洋)／3) テルペン生合成研究の最近の話題—非メバロン酸経路を中心として—(東京農大・瀬戸治男)／4) アンデスとアマゾン地域の薬用資源植物の研究(国立衛研・佐竹元吉)

第2日(10時～12時15分): 5) 天然物生合成における酵素的 Diels-Alder 反応: ソラナピロン合成酵素およびマクロフォミン酸合成酵素の反応機構(北大院農・及川英秋)／6) 天然物由来の腸管細胞機能モデレータの探索(金沢大薬・太田富久)／7) 生活習慣病／加齢病態を予防する北海道産食材成分(植物研究セ・水谷純也, 北大院薬・野村靖幸)

参加費は、非会員2,500円、維持会員2,000円(年会費)、学生1,500円です。懇親会は、21日17時30分～19時30分に北海道大学百年記念館(きやら亭)であり、会費は予約3,500円、当日申込4,000円です。葉書に氏名・所属・連絡先を明記の上、11月10日(金)迄に申し込んでください。参加費・懇親会費は当日受付にてお支払いください。

【申込先】 060-0812 札幌市北区北12条西6丁目 北海道大学大学院薬学研究科 小林淳一 TEL 011-706-3239 FAX 011-706-4989 E-mail jkobay@pharm.hokudai.ac.jp

講習会

●平成12年度自然観察会「川原の生きもの」が、10月22日(日)に、多摩川(二子玉川)で行われます。

自然に親しみながら、動物や植物の名前を知り、これらの観察を通じて自然愛護の気持ちを育てます。内容は、オギの穂が風にゆれる二子玉川の川原で、トノサマバッタやキチョウなどの昆虫、カルガモやコサギなどの水鳥を観察します。その後、実際にオギでみみずく作りなども行います。指導者は国立科学博物館附属自然教育園職員です。集合時間は午前10時で、集合場所は東京急行線二子玉川園駅前です。解散は午後3時ごろの予定です。講習内容の詳細は下記に問い合わせして下さい。雨天の場合は中止です。募集人員は50名(小学生以上で、小学生には保護者が必要)、参加費は無料(ただし、保険料として1人50円)です。実施日1か月前から電話で(自然教育園 TEL 03-3441-7176)受付けます。申込が受理された方には参加通知証を郵送いたします。

【問合先】 108-0071 東京都港区白金台5-21-5 国立科学博物館附属自然教育園 TEL 03-3441-7176

国際会議

●セルロース科学の国際シンポジウム“**Frontier in Cellulose Science**”が、日本学術振興会未来開拓学術研究事業主催で、11月10日(金)～11日(土)に、京大会館(京都市左京区吉田河原町15-9)で開かれます。セルロース科学の発達史と展望ならびに最新の研究について、国際的に著名な研究者を招待して討議します。

海外からの招待講演予定者は次の通りです。

Royal Institute of Technology, Sweden・Bengt Ranby, The Univ. of Texas, USA・R. Malcolm Brown, Jr., CERMAV/CNRS, France・Henry Chanzy, Univ. of California Davis, USA・Deborah Delmer, Michigan Technological Univ., USA・Vincent Chiang.

その他、国内の招待講演者10名ほどを予定しています。

【問合先】 611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学木質科学研究 細胞構造機能研究室 TEL 0774-38-3634 FAX 0774-38-3635

●NIAR/COE/BRAIN-RITE 国際シンポジウム **Photosynthetic CO₂-Assimilating Enzymes: RuBisCO**

and PEPC が、11月30日(木)～12月2日(土)に、グリーンピア三木(兵庫県三田市細川町横山)で開かれます。招待講演者による講演と一般参加者によるポスター発表を行います。セッションと講演予定者は以下の通りです。

RuBisCO Session

Structure: Y. Kai (Osaka Univ.)/Regulation of synthesis: S. Rodermeil (Iowa State Univ., USA), R.J. Spreitzer (Univ. Nebraska, USA)/Reaction mechanism: T.J. Andrews (Australian Natl. Univ., Australia), M. Parry (IACR-Rothamsted, UK), A. Yokota (NAIST/RITE)/Leaf photosynthesis and RuBisCO: A.R. Portis (USDA-ARS, USA), A. Makino (Tohoku Univ.), C. Miyake (NAIST), Y. Kobayashi (Kyushu Univ.), M. Badger (Australian Natl. Univ., Australia)/Bacterial RuBisCO: F.R. Tabita (Ohio State Univ., USA), T. Imanaka (Kyoto Univ.).

PEPC Session

Genes, proteins, and structure: Y. Kai (Osaka Univ.), P. Westhoff (Heinrich-Heine Univ., Germany), F. Satoh (Kyoto Univ.)/Activity regulation: R. Chollet (Univ. Nebraska, USA), H.G. Nimmo (Univ. Glasgow, UK), J. Vidal (Univ. Paris-Sud, France), K. Izui (Kyoto Univ.)/Function: R.T. Furbank (CSIRO, Australia), R.C. Leegood (Univ. Sheffield, UK), A. Vavasseur (CEA de Cadarache, France)/PEPC transgenics: R.E. Häusler (Univ. Cologne, Germany), M. Miyao (NIAR), M. Osaki (Hokkaido Univ.), G. Bowes (Univ. Florida, USA)

参加費はありませんが、食費と懇親会費を含む宿泊費(税別)は、3泊の場合39,000円、4泊の場合48,500円です。参加希望者はシンポジウムの名称を明記の上、下記にお問い合わせ下さい。

【問合先】 100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル4F 日本コンベンションサービス株式会社 NIAR/COE/BRAIN-RITE International Symposium “Photosynthetic CO₂-Assimilating Enzymes: RuBisCO and PEPC” FAX 03-3508-0820 E-mail rubipep@convention.co.jp

●COE-国際会議 **Plant and Ultraviolet-B Radiation: Effects of Increasing Ultraviolet-B Radiation on Ecosystem and Resistance of Plant to Ultraviolet-B Radiation** が、12月4日(月) 13時～6日(水) 14時40分

に、日本光生物学協会、放射線影響学会の後援の下に、東北大学医学部良陵会館（仙台市広瀬町）で開かれます。プログラムは次の通りです。

12月4日 Plenary Lecture: Overview of Researches on Effects of Ultraviolet-B Radiation on Plant (Lars Olof BJORN・Lund Univ.), Session 1. Change and Monitoring of Ultraviolet-B Radiation: Biomonitoring of Genotoxic UV Radiation in Asia and Europe (Nobuo MUNAKATA・NCCR), Measurement and Estimation of Irradiant UV-B in Alpine zone (Michiaki OKANO・FFPR); Session 2. Ecological Aspects: UV-B Radiation Decreases Disease Resistance and Red Light Enhances It in Certain Combinations of Plants and Pathogens (Yuichi HONDA・Shimane Univ.), Effects of Enhanced UV-B Radiation on Forest Vegetation (Michiaki OKANO・FFRC), Effects of Solar UV-B Radiation on Ecosystems of Southern Argentina (Carlos BALLARE・Buenos Aires Univ.), Response of Plants to Increased Levels of UV-B and Atmospheric CO₂ Enrichment (Joseph SULLIVAN・Maryland Univ.)

12月5日 Session 3. Physiological and Biochemical Aspects: Physiological Responses of Cucumber Seedlings to UV-B Irradiation (Noriaki KONDO・Tokyo Univ.), UV-B-sensitive and UV-B-tolerant Mutants of *Arabidopsis*: The Role of the Flavonoid Pathway in UV-B-protection (Rodrigo LOIS・California State Univ.); Session 4. Regulation of Gene Expression and Molecular Effects: UV-B Radiation and Protein Turnover of Rubisco and LHCII in Rice Leaves (Jun HIDEMA・Tohoku Univ.), Towards the Understanding of Global Gene Regulation by UV-B Radiation (Ake STRID・Göteborg Univ.), UV-B Stress Induced Changes in Gene expression: The Role of Signal Transduction Pathways (Brian JORDAN・Massey Univ.)

12月6日 Session 5. DNA Injuries and Photorepair I: *Arabidopsis* Class II DNA Photolyase: Chromophore Composition and Over Expression in Plants (Alfred BATSCHAUER・Phillips-Univ. Marburg), DNA Photolyase in Higher Plants (Megumi HADA・Kyoto Univ.), Yuichi TAKEUCHI・Hokkaido Tokai Univ.), DNA Photolyases and CRY Proteins (Akira YASUI・Tohoku Univ.); Session 5. DNA Injuries and Photorepair II: Cyclobutane Pyrimidine Dimer Photorepair

Deficiency in UV-sensitive Rice Results from a Functionally Altered Photolyase (Jun HIDEMA・Tohoku Univ.), Photorepair of 6-4 Photoproducts in *Arabidopsis thaliana* (Kazuo YAMAMOTO・Tohoku Univ.), Molecular and Biological Strategies for Coping with Environmental Stress (Betsy SUTHERLAND・BNL):

ポスターセッション：募集中です。要旨の締切は10月16日です。

参加費は一般10,000円、学生6,000円です。

【問合せ】 980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学遺伝生態研究センター 熊谷 忠 TEL 022-217-5688 FAX 022-217-5691 E-mail kumagai@ige.tohoku.ac.jp

● **Gordon Research Conference “Temperature Stress in Plants”** Co-chaired by Thomas D. Sharkey (University of Wisconsin) and Norio Murata (基生研)が、2001年1月28日(日)～2月2日(金)に、Sheraton Harbortown Resort, Ventura, California で開かれます。プログラムは以下の通りです。

(1) Importance of temperature stress for plants (2) Temperature stress effects on photosynthesis (3) Ecophysiology (4) Freezing/cryoprotectants (5) Papers from early career scientists (6) Membrane/protein interactions (7) Temperature and timing (8) Temperature signal transduction (9) Heat shock proteins

Gordon Research Conference では未発表の最先端の研究成果が発表され、討論を通じて当該分野の研究の飛躍的発展を目指すものです。日本からの積極的な参加を期待します。

【問合せ】 444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38 基礎生物学的研究所 村田紀夫 TEL 0564-55-7600 FAX 0564-54-4866 E-mail murata@nibb.ac.jp

● **第14回 国際発生生物学会大会（第34回 日本発生生物学会大会）**が、平成13年7月8日(日)～12日(木)に、国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）で開かれます。内容は次の通りです。

特別講演：Friedrich Bonhoeffer (Tübingen), Elizabeth Robertson (Boston), Sean Carroll (Madison), Masatoshi Takeichi (Kyoto), Michael Freeling (Berkeley)

シンポジウム・ワークショップ

Evolution of the body plan, Frontiers of bioimaging,

Embryo early patterning, Emerging genetic technology in developmental biology, Organizing activity in embryogenesis, Pattern generation in development: Theory and practice, Signaling in organogenesis, Body organization in plants, Neural patterning, Development of appendages, Wiring the neural network, Generation of metamerism, Development of behavior, Stem cell and tissue engineering, Functional genomics in developmental biology, Molecular medicine and development, Polarizing cell architecture in organogenesis, Development under environmental effects, Shaping and regenerating organs, Creation of cell heterogeneity
特別セッション

Breaking the body symmetry, Historical synthesis of developmental biology, Differentiation of sexes, Germ cells and gametogenesis, Patterning and transcription factors, Problems of aging

ポスター演題申込締切は平成13年1月15日(月)です。

【問合せ先】 606-8305 京都市左京区吉田河原町14 (財)近畿地方発明センター内 (株)コングレ TEL 075-752-0888 FAX 075-762-2304

参加申し込み、プログラムなどについての詳細は <http://www.congre.co.jp/icdb/> をご覧下さい。

公 募

● 2000年度朝日賞候補者の推薦が募集されています。

わが国のさまざまな分野で傑出した業績をあげ、文化、社会の発展向上に多大の貢献をした個人または団体を顕彰するものです。締切は8月31日(木)ですが、所属学会への締切については、各自問い合わせてください。

【問合せ先】 104-8011 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社文化企画局文化メセナ部「朝日賞」係 TEL 03-5540-7453 (直通) FAX 03-3541-8999

● 平成13年度笹川科学研究助成の対象者が募集されています。

対象は、人文学、社会科学および自然科学(医学を除く)、またはそれらの境界領域の研究計画に関するもので、(1)一般科学研究、(2)学芸員・図書館司書等が行う研究、(3)海洋・船舶科学研究の3つの申請区分に分かれています。対象は35才以下(平成13年4月1日現在)で、大学院修士課程ならびに博士(前期・後期)課程に

在籍する者、大学院生と同等以上の能力を有する者、大学や研究機関や教育機関等で研究活動に従事する者、博物館(含む類似施設)および図書館で研究活動に従事する学芸員・図書館司書等の職員です。ただし大学院生、博物館(含む類似施設)および図書館の学芸員・図書館司書等にあっては年齢制限はありません。1研究計画あたり年間100万円以内が助成されます。募集期間は、9月1日(金)~10月31日(火)(必着)です。応募方法については、下記に問い合わせてください。

【問合せ先】 105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第2ビル3階 (財)日本科学協会 笹川科学研究助成係 TEL 03-3502-1931 FAX 03-3580-8157 E-mail LDG 01360@nifty.ne.jp ホームページ <http://www.jss.or.jp>

● 第4回尾瀬賞候補者の募集がされています。

尾瀬賞(英文名“Oze Prize”)は「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより、この分野の学問的・学際的研究の伸展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とします。候補者は湿原に関する研究において、学術的および湿原保全の見地から優れた業績を上げ、今後の研究の深化が期待される人とし、研究対象は、「泥炭を有する湿原及びそこを生活の場とする生物」とします。(日本国外の湿原を対象とした研究も含まれます)。候補者は個人を対象としますが、グループ研究による業績の場合は代表者による申請とします。応募者の年齢は、平成12年4月1日現在において、原則として50歳未満の人とします。受賞者は2名以内、1名につき賞状および賞金100万円を贈呈します。適任者がいない場合には受賞者なしとすることもあります。

募集締切は10月31日(火)(当日の消印有効)で、応募方法は次の5点をそろえて応募して下さい。(1)「第4回尾瀬賞」応募用紙(2)尾瀬賞応募業績調書(3)過去的主要業績調書(4)(2),(3)に挙げた論文、著作の全文(5)業績一覧。受賞者は平成13年3月に決定され、授賞式は平成13年6月に行います。

【応募用紙送付先・問合せ先】 371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁19階 財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係 TEL 027-220-4431 FAX 027-220-4421 E-mail info@oze-fnd.or.jp

● 財団法人農芸化学研究奨励会による第28回研究奨励金が募集されています。

農芸化学諸分野における意欲的な研究に対し、1件50万円以内、5件総額250万円が援助されます。応募締切は、10月31日(火) 必着です。応募を希望する人は、詳細を下記に問い合わせてください。

【問合先】 113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内 財団法人 農芸化学研究奨励会 TEL 03-3811-8789 FAX 03-3815-1920 E-mail shomub@jsbba.or.jp

●平成12年度下中記念財団助成金の応募者が募集されています。

第9回下中教育映像助成金：小・中・高校生を対象とする、環境教育の教材、創造性・自発性教育の教材あるいはユニークな教育活動の記録として制作されたビデオ作品に対して、また大学や研究機関等の教育・研究活動において、映像の利用が効果的と考えられる分野に関して制作されたビデオ作品に対して助成されます。助成金額は1件当り30万円総額150万円です。締切は11月15日(水) (当日消印有効) です。

第39回下中科学研究助成金：全国小・中・高校の教師(教育センター、盲・聾・養護学校等を含む)を対象とし、広く教育全般にかかわる今日の課題を取り上げた研究に対し助成されます。助成金額は1件当り30万円30件です。締切は、12月10日(日) (当日消印有効) です。

各助成金の詳細は、下記に問い合わせてください。

【問合先】 162-0843 東京都新宿区市谷田町2-7 伊東ハイム301号 (財)下中記念財団事務局 TEL 03-5261-5688 FAX 03-3266-0352 E-mail t-hiroka@tkg.att.ne.jp

●第6回(2001年度)日本女性科学者の会奨励賞候補者が募集されています。

対象は自然科学分野の研究実績においてその将来性を期待でき、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会会員(応募時入会可)です。受賞者には賞状と奨励金20万円(年2件以内)が贈られます。応募書類請求期間は10月1日(日)～31日(火)で、下記までハガキで請求してください。応募期間は11月1日(水)～15日(水) (必着) です。

【書類請求先・送付先】 351-0198 和光市広沢2-1 理化学研究所 フロンティア・生体超分子・スフィンゴ脂質発現チーム内 日本女性科学者の会賞連絡事務局 濱中すみ子

入会申込も受け付けます。なお、電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

●2001年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者および研究助成候補者の推薦が募集されています。

1. 猿橋賞：自然科学の分野で顕著な研究業績を納めた女性科学者(下記推薦締切日現在50歳未満の人)に対し(1年1件1名)、賞状と副賞(30万円)が贈られます。応募を希望する人は、所定の用紙に推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度、及び推薦者氏名・肩書きを、下記に送ってください。締切は、11月30日(木) (必着) です。

2. 研究助成：海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者(締切日現在40歳未満)に対し、1件10万円、年数件が助成されます。応募を希望する人は、所定の用紙に推薦対象者の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等、及び推薦者氏名・肩書きを記入して、下記に送ってください。締切は11月30日(木)と、2001年4月30日(月)の2回です。

【問合先】 166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217 女性科学者に明るい未来をの会 TEL&FAX 03-3330-2455

●第3回大学婦人協会守田科学研究奨励賞の受賞候補者が募集されています。

本賞は化学教育者故守田純子氏から女性科学者育成のためにと遺贈された資金を基にして自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として新しく設けられたものです。対象は、自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、将来自然科学の発展に貢献することが期待される40才未満(応募締切日現在)の女性科学者を対象としています。授賞件数は年2件以内で、賞状および副賞30万円が贈呈されます。提出書類は、1) 推薦状、2) 履歴書(写真添付)、3) 研究業績リスト、主要な論文別刷、4) 研究題目とその概要および今後の展望・抱負等(A4版1～2頁以内)です。応募締切は、11月30日(木) (必着) です。詳細は下記に問い合わせてください。

【書類送付先・連絡先】 160-0017 東京都新宿区左門町11-6-101 (社)大学婦人協会 TEL 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

● **昭和聖徳記念財団による学術研究助成**が募集されています。

対象研究分野は系統分類学で、原則として学術研究機関に属している個人、またはグループが対象となります。1件当たり200万円以内で、助成期間は2年以内です。締切は、12月8日(金)(必着)です。詳細は下記へ問い合わせてください。

【問合せ先】 100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル (財)昭和聖徳記念財団 学術研究助成係
TEL 03-3211-2451 (代) FAX 03-3211-7747

● **平成12年度風戸研究奨励金(研究費助成)の応募者**が募集されています。

電子顕微鏡並びに関連装置の研究および応用研究(医学、生物学、材料学、その他)に携わっている研究者が対象とされます。原則として満40歳以下の研究者を対象とし、1件100万円以内で約4名に送られます。応募を希望する人は、所定の申込用紙に必要事項を記入し、最近の主な論文3編の別刷各9部(うち8部はコピーで可、写真はオリジナルと同等のもの)、推薦状1通、履歴書1通、業績リスト1通を添えて書留で下記に送ってください。締切は、12月31日(日)(当日消印有効)です。

【問合せ先】 196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 日本電子株式会社内 (財)風戸研究奨励会 事務局 高橋正行 TEL 042-542-2106 FAX 042-546-3353

● **2001年度 ICIPE (国際昆虫生理生態学センター) 派遣研究者**が公募されています。

ICIPE (International Centre of Insect Physiology and Ecology) は、パグオッシュ会議による「科学研究を通して開発途上国の発展へ寄与するための研究機関の設立」の提案をきっかけにして、1970年にケニアのナイロビに設立された昆虫学に関する国際研究機関です。ICIPE の主な目的として、農業の発展による食糧の増産と貧困からの解放、人の健康管理、自然環境の保全、そしてアフリカの若手研究者の育成が掲げられています。

日本は1973年から日本学術振興会がスポンサーになり、日本 ICIPE 協会の推薦を受けた研究者を毎年1名 ICIPE に派遣し、国際学術交流事業の一環としてその活動に協力しています。派遣された研究者は ICIPE の以下に掲げる4研究部門のいずれかに所属して、客員研究

員として研究に従事します。

1. Population Ecology and Ecosystem Science/2. Behavioural and Chemical Ecology/3. Molecular Biology and Biotechnology/4. Social Science

これらの部門が相互に協力して、以下の研究プログラムが現在進行しています。

Plant pest management programme/Disease vector management programme/Arthropod biodiversity conservation and utilisation programme/Commercial insects/ Propagation of new technology

このほか、Social Science 部門では、社会経済学的立場から、おもに小農を対象として ICIPE で開発した技術の移転・普及などに関連する研究をおこなっています。

派遣研究者の応募資格は、日本国籍を有する博士の学位を持つ研究者で、日本の研究機関に職を持っている30~40歳代の人が望まれます。派遣期間は原則として約12ヶ月間で、日本学術振興会から規定の旅費・滞在費が支給されます。その他に日本 ICIPE 協会から研究援助金として30万円が支給されるとともに、現地で使用する自家用車が貸与されます。滞在場所は、研究プログラムによってナイロビ(本部)もしくはビクトリア湖畔のビタ(Mbita Point Field Station)になります。

応募を希望する方は、1) 履歴書、2) これまでの研究概略(日本語で4枚程度)、3) ICIPE でしたいと思う研究の大要(英文で3枚程度)、を12月31日(日)(消印有効)までに下記にお送りください。問い合わせ先も同じです。

【問合せ先】 630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部生物科学科気付 日本 ICIPE 協会事務局 佐藤宏明 TEL 0742-20-3937 FAX 0742-20-3368 E-mail scarab@cc.nara-wu.ac.jp

● **東京都立大学理学研究科生物科学専攻で助教授1名**が公募されています。

研究分野は陸上植物を中心とした生態学で、植物生態学研究室に所属予定です。現在当研究室には可知直毅教授と工藤洋助手が所属し、植物の個体群生態学、生理生態学、繁殖生態学、進化生態学などに関する研究をすすめています。詳しくは、<http://dept.biol.metro-u.ac.jp/plantecol/>を参照してください。なお、選考の過程で応募者の方においでいただき、面接及びセミナーを行っていただく場合があります。

提出書類は、1)履歴書、2)研究業績リスト、3)主要論文の別刷6編（複写可、レビュー論文を含めても可）、4)これまでの研究概要（A4紙1枚）5)着任後の研究・教育についての計画・抱負（A4紙2枚以内）、6)科研費等取得状況、7)その他参考事項です。

採用予定は2001年4月1日です。応募締切は9月14日（木）です。郵送は普通便で結構ですが、発送時にE-mailでご連絡下さい。受取確認のご連絡をします。応募書類は特に申し出のない限り返却いたしません。

【書類送付および問合せ】 192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学研究科 生物科学専攻 植物生態学助教授人事選考小委員会委員長 渡辺泰徳 E-mail watanabe-yasunori@c.metro-u.ac.jp TEL 0426-77-2580 生物科学専攻のホームページ <http://www.sci.metro-u.ac.jp/biol/>

● 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻（生物）で助手1名が公募されています。

専門分野は植物学です。応募資格は学位（博士）取得者で、着任時に35才未満の方が望まれます。着任後は教養学部前期課程1、2年生の実習（高等植物の組織・形態等を含む実習の立案・指導を中心的に行う）と大学院指導補助などを担当していただきます。着任時期は2001年1月を予定しています。提出書類は、1)履歴書、2)業績目録、3)主要論文別刷（5編以内）、4)これまでの研究概要（1000字以内、主要論文との関係を明記して下さい）、5)これからの研究教育に対する抱負（1000字以内）です。応募の締切は、9月29日（金）必着です。応募書類は封筒に「教官応募」と朱書き、簡易書留でお送り下さい。また、応募希望者は下記の問合先まで事前にご連絡下さい。

【書類提出先】 153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻（生物） 松本 忠夫

【問合先】 153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻（生物） 大森正之 TEL 03-5454-6631, FAX 03-5454-4333, E-mail: cohori@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

● 岡山大学理学部生物学科生体分子機能科学講座で教授1名が公募されています。

研究分野は、植物生理学で、細胞・分子生物学的手法を用いて活発に研究している方が望まれています。

本学科は大講座制を採っております。着任後は、大学院（博士前期・後期）の講義と研究指導、学部における講義と実習および一般教育を担当していただきます。生物学科および大学院の教官構成と研究分野については、ホームページ（<http://www.biol.okayama-u.ac.jp/index.html>）をご参照ください。着任時期は平成13年4月1日です。

提出書類は、1)履歴書、2)研究業績リスト（原著論文と総説・著書などに分けて作成、corresponding author となった論文には丸印）、3)主要な論文の別刷りまたはコピー（5編、総説があれば添付）、4)研究成果の概要（2000字程度）、5)今後の研究と教育に関する抱負（2000字程度）、6)学会活動、科研費等取得状況、その他参考資料、7)推薦状（1-2通）、または人物照会が可能な方の氏名と連絡先です。書類提出期限は9月30日（土）（消印有効）です。応募書類は、封筒に「生体分子機能科学講座教授人事応募書類在中」と朱書きし、（簡易）書留で郵送してください。

【書類提出先および問合せ】 700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学理学部生物学科 学科長 倉谷 滋 TEL 086-251-7867 FAX 086-251-7876 E-mail sasuke@cc.okayama-u.ac.jp

● 北海道大学低温科学研究所寒冷圏総合科学部門で助教授1名が公募されています。

陸上動物群集における生物多様性の創出・維持機構を生態学的観点から研究する人を希望します。大学院は北海道大学大学院地球環境科学研究科・生態環境科学専攻を担当して頂く予定です。当研究所の生態学関係のスタッフとしては、動物生態学分野に戸田正憲（教授）と大館智志（助手）が、植物生態学分野に原登志彦（教授）、隅田明洋（助教授）と鈴木準一郎（助手）が在籍しています。詳細は低温研ホームページの組織、研究者一覧を参照して下さい（<http://www.hokudai.ac.jp/lowtemp/teion.html>）。着任時期は平成13年4月1日を予定しています。提出書類は、1)履歴書（連絡先、大学入学以降の学歴、研究・教育歴、学位、受賞歴など）、2)研究業績目録（査読制度のある学術誌に発表した原著論文、総説、著書、その他などに分ける）、3)主要論文別刷りあるいはコピー10編以内（研究業績目録に印を付ける）、4)これまでの研究概要（2,000字程度）、5)着任後の研究展望と抱負（2,000字程度）、6)応募者についての意見を聞ける人2名の氏名、所属と連絡先電話番号です。

公募締切は10月2日(月)必着です。封筒の表に「寒冷圏総合科学部門助教授応募書類」と朱書し、書留でお送り下さい。

【書類提出先】 060-0819 札幌市北区北19条西8丁目
北海道大学低温科学研究所 所長 本堂武夫

【問合先】 北海道大学低温科学研究所 寒冷圏総合科学
部門 戸田正憲 TEL 011-706-6887 FAX 011-706-7142

●新潟大学理学部自然環境科学科環境生物学大講座で助教授2名が公募されています。

植物の形態と機能(植物形態学・植物生理学)に関連する分野、および植物生態学に関連する分野の学部と大学院の講義・実験・野外実習を担当いただける方、それぞれ1名ずつです。着任時期は2001年4月1日の予定です。

自然環境科学科は地球環境科学、環境生物学、物質循環科学の3大講座から構成されており、物理学・化学・生物学・地学の基礎教育を重視した、理学的環境教育を志向しています。今回公募する環境生物学大講座では、生物多様性に重点を置いた教育研究の充実を目指しています。詳細は学科ホームページ(<http://pheasant.ge.niigata-u.ac.jp/index.html>)をご参照下さい。

提出書類は(1)履歴書、(2)研究業績目録(原著論文、総説、著書、その他を区分したリスト)、(3)主要研究論文別刷、(4)研究成果の概要(2000字程度)、(5)教育に関する抱負と今後の研究計画(2000字程度)(担当経験がある、あるいは担当可能な授業の分野を明記してください)、(6)応募者について照会が可能な方2名の連絡先です。応募締切は10月15日(日)(当日消印有効)です。封筒には、「環境生物学教員応募書類在中」と朱筆の上、簡易書留にて郵送して下さい。

【書類提出先】 950-2181 新潟市五十嵐二の町8050 新潟大学理学部自然環境科学科 学科長 檀上篤徳

【問合先】 同学科環境生物学大講座主任 濱口 哲
TEL 025-262-6326 E-mail shamaguc@sc.niigata-u.ac.jp

●名古屋市立大学自然科学研究教育センター物質科学系大講座で助手1名が公募されています。

専門分野は化学分光学で、有機、無機、生体物質について、その分子構造や機能等に関する情報を分光学的手段により解明する研究に意欲的に取り組んでいる方を希

望します。対象物質の合成や調製を含む。赤外、ラマン、紫外・可視分光法を主たる手段として用いることが望ましい。教育内容は、化学実験(学部1年生対象)および大学院学生の指導を担当します。当センターには大学院システム自然科学研究科が設置されています。応募資格は博士の学位を有するか、着任までに取得見込みの方で、着任時33歳以下の方を望みます。着任時期は2001年4月1日です。提出書類は、1)履歴書1部、2)研究業績目録、3)主要論文の別刷り、4)研究概要と研究・教育に対する今後の抱負(各1000字以内)、5)応募者について問合せできる方2名の氏名と連絡先です。応募締切は、10月16日(月)(必着)です。封筒に「物質科学系助手応募」と朱書し、簡易書留で郵送してください。

【書類送付先】 467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1 名古屋市立大学自然科学研究教育センター 事務室

【問合先】 自然科学研究教育センター物質科学系大講座主任 安田秀雄 TEL 052-872-5854 FAX 052-872-5857 E-mail yasuda@nsc.nagoya-cu.ac.jp または桑江彰夫 TEL 052-872-5856 FAX 052-872-5857 E-mail kuwae@nsc.nagoya-cu.ac.jp

構成員の専門分野、研究テーマ等については <http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp> を参考にしてください。

●(財)風戸研究奨励会による公募がありましたことは既にお知らせしましたが[333]、次の方々に決まりました。

平成12年度風戸研究奨励金(国際会議発表研究費助成):日体大・長船哲齊ほか9名

●(財)農芸化学研究奨励会による公募がありましたことは既にお知らせしましたが[339]、次の方々に決まりました。

第49回国際会議出席費補助金:東大生物生産セ・八木研ほか7件

●(社)大学婦人協会による公募がありましたことは既にお知らせしましたが[333]、次の方々に決まりました。

第2回大学婦人協会守田科学研究奨励賞:オクラホマ州立大化学・庭山聡美、東京医科歯科大難治疾患研・浜崎浩子

●(財)三井生命厚生事業団による研究助成の公募があ

りましたことは既にお知らせしましたが〔339〕、次の方々に決まりました。

第33回医学研究助成：東北大医・鈴木正徳，海野倫明，遠藤公人，片寄 友ほか19件

第9回医学研究特別助成：国立国際医療センター研・望月直樹，松田道行ほか3件

書 評

細胞学の歴史 A. ヒューズ著 西村顕治訳 八坂書房
1999年 238頁 2,800円

とても貴重な本だと思う。数多くの貴重な図版に加え、その時々発見の経緯を丁寧に引用して紹介している。原著は1959年の出版だが、細胞学の歴史と銘打った書物としては最初のもので、近年まで他に類書もないと訳者もあとがきで述べており、この分野について（特にこの金額で！）知るには重宝な一冊だと思う。

科学史はおもしろい。概説書等では導入の章あたりで紹介されることの多い著名な方々がいかにしてさまざまな発見をしてきたのか、その経緯が目の前に現実化してくるというおもしろさがある。本書のように、それらの方々が語った言葉等を丁寧に引用していると尚更その現実味は強い。もちろん、歴史のおもしろさの正当な醍醐味は、大局として、歴史の流れや動きを知ることだろう。けれども、実験を日々楽しんでいる人間のひとりとして率直に言えば、先人が発見したいきさつを「なるほどこういう時にそうしたのねえ」と想像してみることは心楽しい。科学史には、机上の世界としてだけでなく、実際に実験をやっている立場だからこそ感じるそのようなおもしろさがあると思う。そして、本書は、貴重な歴史的資料の宝庫だというだけでなく、そのような過去の世界を現実の世界へと生き返らせてくれるような楽しさを持った本だと思う。ぜひお勧めしたい。

（東大院総合文化研究科生命環境系・小山幸子）

走査電子顕微鏡 日本電子顕微鏡学会関東支部 編，共立出版，2000年，447頁，12,000円（本体価格）

肉眼では見ることでできないミクロの世界を垣間見たいという欲望が、顕微鏡の分解能をこれまで飛躍的に向上させてきた。走査電子顕微鏡（SEM）は、試料表面の微細な立体構造を電子線により観察する顕微鏡であ

る。現在、分解能は0.5nm を切り、X 線による元素分析技術などと合わせて、生物学や工学など幅広い分野で利用されている。科学を知らない一般の人達でも直観的に「形」を理解できることが、重要な特徴と言える。

本書は、そのような SEM の原理・操作法から、さまざまな解析技術、さらには生物科学や材料科学への応用に至るまでを網羅した良書である。単なる How To もでなく、理論的背景まで理解できる充実した内容が特徴だ。レイアウトが真面目すぎて少々取っ付きにくい感もあるが、読み進めると内容が濃く、とても読みやすいことがわかる。文献や索引も大変充実している。また、コーヒブレイク欄が多いことから、SEM に関する幅広い知識を楽しく得ることができる。日本電子顕微鏡学会の編集だけあって、写真は質・量ともに申し分ない。マニュアルとしても辞書としても使いやすい1冊であり、既に SEM を扱っている人にも、これから始めようと思う人にも、ぜひお勧めしたい1冊である。

（東大・院・理・生物科学 東山哲也）

寄贈図書の手評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の手評希望者を募集いたします。希望者は編集委員会まで葉書、FAX または E メールでご連絡ください。手評をお願いする場合は本と執筆要領を送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたにお願いするかは編集委員会にご任願います。尚、出版社より編集委員会に手評依頼のあった単行本以外の手評、および手評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。

生きものは昼夜をよむ 光周性のふしぎ 沼田英治著
212頁 2000年 岩波ジュニア新書 700円（本体価格、以下同）／干潟の実験生態学 K.・ライゼ著 倉田 博
訳 175頁 2000年 生物研究社 3,800円／THE
BIOLOGY OF BATS Gerhard Neuweiler 著 310頁
2000年 Oxford University Press 70.00ドル

〔連絡先〕 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル
生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-5352
E-mail pdp@sakura.cc.tsukuba.ac.jp, fshishi@med.
nihon-u.ac.jp

生物科学ニュース編集委員会